

授業科目名	ピアノ伴奏法Ⅰ	担当形態	演習		
		開講学期	春学期		
担当教員	松下 寛子	単位	1	年次	3

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

教育の現場や演奏家にとって、伴奏は必要不可欠である。  
 この授業では、伴奏に興味を持ち、アンサンブルする楽しみを知る。  
 その上で、伴奏に必要な聞き方（知識）やテクニックを、実践しながら身につけることを目指す。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

専攻を考慮して伴奏実習を決定するため、初回ガイダンスには必ず出席のこと。  
 ソリストは各自で用意し、第2回～13回の間は最低1曲は発表する機会を持つ。  
 第14回・15回は発表試演会を行う。  
 各自割り当てられた曲を明確な目標を持ち準備する。他人の演奏を聴くことでその聞く力も養うようにする。

### ＝授業の概要＝

ソロと伴奏の違いを認識する。  
 その上で各楽器の特性を知ることによって、その楽器をより引き立たせるための伴奏を習得できるようにする。  
 声楽伴奏の場合、その歌詞を理解する必要性を認識する。

### ＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス；シラバス（講義の目標や内容）の確認
- 2回 イタリア歌曲等の研究
- 3回 ドイツ歌曲等の研究1（シューベルト）
- 4回 ドイツ歌曲等の研究2（シューマン・ブラームス）
- 5回 日本歌曲等の研究1（山田耕筰）
- 6回 日本歌曲等の研究2（中田喜直）
- 7回 オペラ作品の研究
- 8回 合唱曲等の研究
- 9回 中学高校音楽教材作品等の研究
- 10回 金管作品の研究1（トランペット・ホルン）
- 11回 金管作品の研究2（トロンボーン・チューバ・ユーフォニアム）と 木管作品の研究1（フルート）
- 12回 木管作品の研究2（クラリネット・オーボエ・ファゴット）
- 13回 弦楽作品の研究
- 14回 発表試演会1
- 15回 発表試演会2 と 伴奏役割のまとめ

### ＝テキスト（必携）＝

特になし

### **=参考書・参考資料（必携）=**

適宜プリントにて配布する。各自発表曲は前週までに一部楽譜を持参すること。

### **=成績評価の方法と評価の基準=**

出席状況、受講態度（聞く姿勢）、コメントカード、発表準備等を総合的に判断し、各自発表の演奏（伴奏・アンサンブルとして）を評価します。

### **=その他=**

特になし